

## 第 20 回首都圏政策研究会 要旨

日時：2013 年 9 月 17 日（火）15 時～17 時

講師：ラリードライバー 篠塚健次郎氏

テーマ：「ラリーに懸けた人生とこれからの挑戦」

### 0. 松沢知事による挨拶

○10 月中旬に始まる国会では、消費税や TPP 交渉、原発汚染水漏れなどが大きな争点になるだろう。

○篠塚講師とは、「日本の標(しるべ)」(Tokyo MX) という番組で知り合い、今は活動をサポートしあう関係。

### 1. 映像番組の視聴

○篠塚講師が 2 つの映像番組を取めたデータを持参された。パリ・ダカールラリーの様子を、篠塚講師を特集して写した映像を 2 本視聴。

○砂漠の壮絶なレース、疾走する車、強盗に備える選手たちなどの様子が流された。

○1 万キロを 20 日で争い、完走するのは参加選手うち 3 割程度とのこと。

○篠塚講師の経歴も、映像内で紹介された。

- ・日本人初のパリダカ総合優勝選手
- ・86 年の初出場で初完走。以降、3 位、2 位と年々順位を上げていく
- ・91 年に大クラッシュで初のリタイア。選手としても高齢になるなかで、初出場 12 年目になる 97 年、初優勝を果たす。
- ・パリダカ計 22 回連続出場の記録を持つ。
- ・努力を続ければ、花ひらくという言葉も紹介される。

### 2. パリ・ダカールラリーの紹介

○レースには、前車同時スタートのサーキットと、順次スタートして所要タイムを競うラリーがある。

・短距離サーキットの代表格は F1 で、長距離の代表格はルマン 24 時間。

・短距離ラリーの代表格は WRC で、長距離の代表格はパリダカ。

○ダカールラリーは、世界で一番むずかしい過酷なレースだと言われる。その理由として、次の 3 つが挙げられる。

#### ①コースが分からないこと

- ・パリダカでは、翌日走るべきコースを毎日のゴール後に知らされる。しかも、詳細な地図ではなく、目印になるポイントのみが書かれたものを渡される。
- ・コースによって車の整備や走り方が変わる。優勝するためにはコースのコンディションを予測した上で、たぶんこれで行けるだろうと考えながら走ることになる。
- ・しかし予測が外れると、クラッシュなどに繋がってしまう。だからこそコースが分からないというのは運転を難しくさせる。

## ②天候が過酷であること

- ・ラリーに使う車には、少しでも車を軽くさせるため空調などを装備しない。
- ・パリダカでは、標高の高い山での寒さから、砂漠地帯での猛暑までを経験する。
- ・人は脱水症状、車はオーバーヒートによるトラブルの危険がある。
- ・この過酷な気温状況とつきあわなくてはいけないのは大変である。

## ③生活をしながらのラリーであること

- ・パリダカは 20 日もかけるレース。寝る場所や食べ物など生活についての問題もある。
- ・提供されたテントで寝ることになるが、すぐ横で車の整備が行われていて、すさまじい音をする。また、靴を外に放置しておく、盗まれたりサソリが入り込んだりもする。

## 3. ラリーを 22 年間やっていて大切だと思ったこと

- チームの皆が、目標と自分の役目を認識できているかどうかが大切。
- 目指す順位が変われば、レースへの取り組み方も変わってくる。
- ソーラーカーレースに参加するため学生と一緒に海外に行ったときも、私はいい成績を取りにいていた。しかし学生は遊び気分で、勝負しにいてはいなかった
- そこで私はチームをまとめる努力をして、結果としてチームは優勝した。

## 4. 限界をこえたとき

- 走っていて、限界を超えたと思ったことが 3 回ある。1998 年、2000 年、2003 年のパリダカだ。
- それぞれ、車の販売への貢献や、パリダカ参加の期間継続など、自分にかかっているものが何かしらあったため、少々無理をして事故を起こしてしまった。
- これら 3 回では、限界突破を感じたが、行くしかないと思っていた。なにか背負ったときには、人間は限界を超えることができるのだと感じた。大きな失敗にはなっているが…。

## 5. ラリーを始めたきっかけ

- ラリーを始めたのは大学 1 年のとき。友人から、一緒に出ようと誘われたのがきっかけ。あまり一般的な競技ではなく、私もその時に始めて名前を聞いた。
- 車のスライドをコントロールして走るのが面白いと思い、その後、ラリーに没頭する生活に。人生の方向が決まる出会いだった。
- パリダカには 1986 年に出会った。それまでは WRC をずっとやっていた。夏木陽介さんに、パリダカに出たら完走するのは難しいから、誰かと一緒に 2 台で出たいという話になった。そのときは、勝負にこだわらないでよいという話で、完走した。
- しんどいレースだと思ったが、3 ヶ月くらいして面白かったなと思い始めた。そして今度は、早い車で走りたくなった。
- 次に、早い車を用意してもらい、3 位になり、翌年は 2 位、そして 12 年かかって、優勝した。私の人生はパリダカとともにあった感じた。

## 6. フランスと日本

○2回目の大きな事故を起こしてから、2009年までフランスにいた。フランスと日本では、違うところがいくつかあった。

### ①居住人口と観光客数

- ・フランスは6000万人の人口だが、7000万人が海外から観光に訪れる。日本は800万人のみである。
- ・フランスがこれだけ人を集められるのは、衣食住や芸術、文化、スポーツと、それぞれに世界トップのものがあるからではないか。
- ・ビittelというところでは、村全体でミネラルウォーターのビittelを紹介するリゾートエリアになっている。自転車も、どこで乗ってどこで乗り捨てても良い状態。

### ②古いものを見せる

- ・9年間で3回の引っ越しをした。住んだ建物は、100年以上立っているような建物で、映画に出てくるようなエレベーターだった。そういうものを、大切にす文化がある。
- ・もちろん日本が地震などで長く建物を保存できないことはわかるが、フランス人の古いものを大切にす思いはすごいと思った。ひとつひとつがすべて絵になる。
- ・あるとき、パリマラソンを見に行つた。名だたる観光地を全て走るマラソン。観光地が、全部の観光地が映るので、世界中にパリが宣伝できる。こういうものはすごいと思う。日本にもあればよいのでは。
- ・ひとにいいものを見てもらう。ひとが来れば、お金もあつまる。こういう循環が、自然に存在するのがフランスだった。

### ③規制に対する考え方

- ・日本ではさまざまな規制があるが、フランスはこれをいやがる。
- ・シャンゼリゼは、片側で4車線くらいある。日本なら車線を引くところだが、ここにはない。
- ・日本では実験的にラウンドアバウトもあるが、どうなるか。うまくいくといいが。

## 7. ソーラーカー

○私はずっとラリーをしていたが、最近ではソーラーカーを始めた。2008年にはじめて南アフリカのレースで優勝した。翌年はオーストラリアの大会に出た。

○ライバルチームがさまざまなトラブルを起こす中、我々はノートラブルで4日間走り、優勝した。その後、4年連続出場と優勝、という結果。

○1日あたり500kmは走つたことになった。帰つてきて、これは温暖化に役立つのではないかと思つた。

○ソーラーカーにはギネススピード記録がある。来年の春くらいには更新を実現させたい。

○電気自動車もやってみようかと思つている。1回の充電で何キロ走れるかという記録がある。いまのギネスは1003km。11月には更新に挑戦する予定である。目標は1200km。

## 8. 最後に

○あと2ヶ月で高齢者の仲間入りになるのだが、いくつになつても何かやろうという気持

ちはなくさずにやってみようと思っている。ずっと走れる人生でいけばいいなあと思っている。

## 9. 質疑応答

**Q 1**：パリダカでは、前日にコースの地図を発表したり、目印のみで走行したり無謀さがあるように思うが、それを楽しむのか。

**A 1**：冒険ラリーと言われるくらいで、主催者も冒険の余地を残している。コースも、例えば立ち木が見えたら何度方向に曲がれとか、そのまま何キロいくとか、抽象的に指示される。天候が悪い中で、目印を探すのはむずかしい。全てが冒険だし、様々な後悔ストーリーがみなにある。そこもおもしろい。

**Q 2**：走っている方向の確認はコンパスだけでやるのか。

**A 2**：1992年まではGPS禁止だった。砂漠なので、地図といってもほとんどない。そのころ一番性格なロシアの軍隊が作成した地図だったが、これはものすごく高かった。いまは主催者から渡されたGPSが使える。通過ポイントのみが教えられ、そこまでのキロ数を教えてくれる。そのポイントは絶対に通らなくてはいけない。

**Q 3**：パリダカの総事業費はいくらくらいなのか。また、負担分の割合はどうなっているのか。

**A 3**：4台が出ると20億円くらい。スポンサーを取って補助している。映画や放映権などの収入は主催者持ち。

### 【事務局からのお知らせ】

○昨年度の報告書を作成した。

○2014年度の研究会の会場は、横浜や、参議院議員会館なども候補にしている。駅近くでアクセスの良い会場を探しているところ。東京と横浜は隔月で入れ替えて開催予定。

○会費は財政的に余裕が出てきたので、企業会員は1口20万に、個人会員は7万に。

○企業会員の方は、社員の研修にも利用していただきたい。

○10-9月までの会員登録で、更新時期が近い、次年度の案内を配布するので、会員登録の継続をお願いしたい。

○会員の方から講師の要望があれば事務局にご連絡を。

○松沢議員の出版記念会が10月2日に横浜そごうにて開催されるので、ぜひご参加を。

以上